
国 際 健 康 開 発 *I H D*

特定非営利活動法人(NPO)会報 9号 2012年12月

Phengxay Manilay さんの来日に際し行われたセミナーと懇親会についての報告

牛島廣治

Manilay さんは2012年10月22日から24日の国立感染症研究所で行われたアジアの感染症疫学の研修会へ参加されました。引き続き3日間、東京におられるに際し当時の関係者および現職員が参加してセミナーを行いました。また夕方からは懇親会を行いました。セミナーは午後3時から東京大学医学部3号館S106において8名の発表がありました。

セミナー参加者(敬称略)は、Manilay・水口・斉藤・高梨・沖津・柳生・寺尾・顔・顧・塩田・早川・Quang・牛島・Thongprachum・Tran・Manilay さんの友人の15名、懇親会にはManilay・高梨・沖津・柳生・寺尾・顔・顧・塩田・早川・Quang・高木・大亀・楨田・玉木・牛島・Thongprachum・Tran・(大亀優里奈)です。セミナーは水口先生の挨拶と高梨・牛島の司会で進みました。プログラムは下記の通りです。

「International meeting of the diseases in Asia」

1. Manilay Phengxay: Overview of infectious diseases under national notifiable disease surveillance system

and Lao Field Epidemiology Training (FET)

2. Yan Hong Gu: Epidemiological study on children intractable diseases.

3. Tomoyuki Shiota: Characterization of hepatitis E virus capsid C-terminal 52 amino acids in the viral life cycle.

4. Tran Dinh Nyugyen: Molecular epidemiology studies on rubella virus infection and respiratory infections in Vietnam

5. Aksara Thongprachum: Reemergence of new variant G3 rotavirus in Japanese pediatric patients.

6. Trinh Duy Quang: Seroprevalence of *Chlamydomphila pneumoniae* in HIV-infected children in Vietnam.

7. Yoshitaka Terao: Development and Evaluation of Immunochromatographic Assay for Simple Rapid Detection of *Escherichia coli* 0157, 026, 0111 and Vero Toxin

1/2 in Food Products

8. Fumihiro Yagyu: A study of vaccine coverage and perception of parents against vaccine in the child day care center in Tokyo, Japan

Manilay さんはラオスのWHO機関で感染症の疫学調査、感染症防御のための教育、

アウトブレイクの際の対策等重要な仕事をしておりました。Gu（顧）さんは日本の小児の慢性疾患（難病）の発症頻度を中心に国立成育医療センターでの仕事を紹介してくれました。塩田さんは国立感染症研究所で行っている E 型肝炎ウイルスの人工的な作製（Reverse Genetics）という基礎研究でした。Tran さんは修士 2 年間の研究を手際よくまとめてくれました。ベトナム小児の風疹疫学と先天性風疹症候群の 1 例、呼吸器疾患の分子疫学でした。Aksara さんはわが国ではロタウイルスの遺伝子型が G1 から G3 に代わってきたことを話しました。今後ロタウイルスワクチンの使用でどのような血清型が流行するか興味があるところです。Quang さんはベトナムの HIV 感染児の *Chlamydomyxa pneumoniae* の感染あるいはその抗体保有について話をしてくれました。Tran さん、Aksara さん、Quang さんは日本大学を研究の場としております。寺尾さんは日本ハムの研究所にありますが、食中毒を防止するために食品の中の微生物の検出を目的としてイムノクロマト法の開発をしております。今回大腸菌 0157、26、111 とベロトキシン 1 と 2 を検出するキットの話をしてくれました。柳生さんは、保育園でのワクチンの接種状況やワクチンに対する認識について、ワクチンの接種状況には親の認識と忙しさ、定期接種以外は費用のことが絡んでいること。そして保育園の先生の関与が大切であることを述べていました。今回は感染症を中心の内容でした。発表者はそれぞれ活躍している場所はことなりますが、生き生きと現場で活躍されているのがわかりました。懇親会では、現在・過去の発達医科学関連の者が一緒に集まり

ました。セミナーでは話せなかったようなこともより深く話ができ有意義な時間を過ごしました。アジアの国々の方が一緒に話し合える機会として有意義であったと思います（写真 1）。牛島廣治



写真 1 セミナー修了後の懇親会での記念写真

Letter from the USA

Dey Shuvra Kanti
Postdoctoral Fellow
The University of Maryland
College Park, MD

I am Dey Shuvra Kanti from Bangladesh and graduated from University of Dhaka. My major was Microbiology. After that I joined in ICDDR, B (International Center for Diarrheal Diseases Research, Bangladesh). It is the leading research organization in South and South-East Asia. I came to Japan in 4th April 2005 as a Masters student at Department of Developmental Medical Sciences,

Graduate School of Medicine, The University of Tokyo. Actually, it was my dream to acquire higher studies from Japan (one of the best and leading country in the world). Finally my dream came true in 2005. I have been successfully finished my Masters course in March 2007 and PhD in March 2010. After that, I received one of the most prestigious postdoctoral fellowships in Japan (JSPS fellowship). Truly speaking, I got everything in my life with the help of Ushijima sensei. I am nothing without him.

Time is moving very fast. I am here at the USA around one year. My work at lab usually starts at 9 am and finished at 5 pm. My family and I really enjoy work and life in Maryland. It's very close to Washington DC. I am now working as postdoctoral fellow at the University of Maryland, College Park. I am now working on food safety and foodborne infection (mainly focus on *Salmonella* virulence assay, *Campylobacter* and EHEC infection in US, Egg Yolk antibody against *Salmonella* etc.). I am also enjoying the environment of my present lab. It's really very nice. During this short period, I found that some natural substances (cocoa extract, blackberry juices are very active against pathogenic bacteria and these natural substances also stimulate the growth of probiotics). I also found that *Salmonella typhimurium*, *Campylobacter*,

enteropathogenic *E. Coli* and *Listeria* are big burden of foodborne infection in US.

Japan is my second homeland. Staying and studying 7 years in Japan is a great and golden period for me, having many teachers and friends I love and many unforgettable memories I always remember. Finally, I would like to express my sincere gratitude to my colleagues, The University of Tokyo for providing this opportunity.

I miss all of you a lot. My last and final dream will serve for Japanese people in future. My deepest thanks to all of you and please visit us at your convenient time. (写真)



インドネシア国マナドとの国際共同研究への道のり

今田美穂子

ずいぶん昔の話ですが、勤続 15 年の職場を思い切って退職し青年海外協力隊に参加しました。派遣先はインドネシア北スラベシ州にあるマナド教育大学（現・マナド国立大学）の日本語プログラム。1992 年 8 月、空港に到着すると花束をもった関係者達に出迎えられ、ネイティブ日本語教師登場への大学側の期待をひしひしと感じました（写真 1）。10 人の現地教師と共に、約 100 名の学生の指導を行い、教材不足の中で懸命に授業をこなす一方、学生たちとキャンプやビーチへと遊びにも行きました。これがマナドとのご縁の始まりでした。



写真 1. マナド空港に初めて降り立った日。筆者は青年海外協力隊の制服姿

2 年間の活動を終え、帰国後、国際保健学の大学院に進学し、マラリア原虫を材料とした分子生物学の解析を行いました。修士取得後、定職にはつかず実験アルバイトをしているときに、シニア海外ボランティ

ア（SV）の案件開拓団の仕事が舞い込みました。団と言っても一人だけで、2 ヶ月間インドネシア全国を飛び回り、様々な分野から合計 13 案件を開拓しました。案件がジャワ島に集中しがちなため、外島からも開拓せよという指示を受け、北スラベシ州サムラランギ大学医学部にもインタビューに行きました。当地にマラリア流行地があること、大学でもまだ実験研究設備が不十分であることを知っていたので、日本との共同研究の素地を作ることを目的に「熱帯病学研究支援」案件を立案しました。任務を終えて日本で実験アルバイトに復帰しましたが、1 年半後にこの案件が公募となったことを知り、応募してみました。結果、採用され 2001 年 11 月に再びマナドへ、今度は SV としてサムラランギ大学医学部に派遣されました。

カウンターパートは寄生虫学教室の J 医師。私にも執務室として一部屋与えてくれました。配属間もないある日、学内を視察していたら PCR 機がひとつぼつんと放置されているのを発見しました。Perkin Elmer 社の PCR 機で、実験アルバイトで使っていたものと全く同じ機種です。しかし機械があるだけでマイクロピペット、チップ、チューブ、そして試薬もなく、全く利用された形跡がありませんでした。そこで、一時帰国の際にこれら不足品を寄付してもらい、持ち帰り、J 医師と協力して、医学部の先生方に PCR 実験と電気泳動のデモンストレーションを行いました（写真 2）。これをきっかけに配属先の信頼を得ることができ、寄生虫学教室内にかなり質素ではありますが、分子生物学基礎実験室を新設することができました。



写真 2. 医学部の先生方に PCR 機の使い方をデモンストレーション

次に J 医師に、日本とのリンクを構築するための第一歩として、日本人向け短期マラリア講習会「熱帯フィールド研修」の開催を提案したところ、賛同してもらえました。マラリアの診断治療に経験豊かな現地医師たちのご協力を仰ぎ、日本人参加者に講義をしてもらうという内容です。J 医師の案内による実際のマラリア流行地域へのフィールドツアー、現地の病院や保健所の見学も盛り込みました。各回の参加人数は少ないのですがおおむね好評で、合計 8 回開催しました(写真 3, 4)。効果として、受け入れ側である医学部の教員、スタッフが次第に外国人である日本人との交流に慣れていき、日本へはマナドの紹介ができました。現在日本国内で寄生虫の形体を学べる場所は少ないので、いつかまたこの講習会を再開できたらと考えています。

さて、任期の後半に入ると、大学院時代の恩師である W 先生から連絡が入り、共同研究への協力要請がありました。具体的には、三日熱マラリア原虫の完全長 c-DNA ライブラリ作成のためのサンプル集めをして欲しいという依頼でした。思いがけなく早い時期に国際共同研究を開始できる



写真 3. 第 2 回熱帯フィールド研修 参加者は 1 名 J 医師、医学部長(当時)、寄生虫学教室の教員スタッフ



写真 4. 第 3 回熱帯フィールド研修 奥はスライドのマラリア原虫を確認している参加者 手前は J 医師とお嬢さん

展開となりました。J 医師に相談したところ、「やってみましょう」と言ってくれたので、彼の故郷である Tombatu 村の保健所でサンプル集めをすることにしました。注射器による採血をしたことのない人たちに 5ml の血液供与をお願いしても大丈夫だろうかと不安もありましたが、J 医師と保健所の方々との関係や、住民の方々の保健所への信頼もあって、血液サンプルをいただくことができました。J 医師が三日熱マラリア患者さんの同意を得て採血したサンプルを、私が受け取り、蒸留水で溶血

させ、機械で攪拌、白血球を除去する特殊なフィルターを通し、RNA が壊れないように冷やすためドライアイスの入った容器に入れるという作業を保健所内の隣の部屋で行いました(写真 5)。それを医学部に



写真 5. Tombatu 保健所にて 筆者は中央

持ち帰りマイナス 20 度の冷凍庫に移し保管することで完了です。早朝車に機材を乗せてマナド市内を出発し、片道 3 時間半かけて Tombatu 保健所へ到着しましたが、サンプルが取れない日が何度もありました。J 医師は通常業務の合間を縫ってこうした地道な作業に根気よく付き合い、サンプル収集に全面協力してくれました。サンプル収集の大変さに加え、往復 3 時間かけてドライアイスを調達するなど日本では考えられないようなロジスティックスの苦労もありましたが、合計 10 数回 Tombatu 保健所へ通い、大学の冷凍庫に保管しておいたサンプルを、まとめてドライアイスと共に日本へ輸送しました。成田空港で日本の輸送会社に一旦引き取ってもらい、ドライアイスを補充してもらう手続きをしておいたので、コールドチェーンを保った状態で無事 T 大学医科学研究所に届けることができました。その後 2005 年に W 先生

のチームにより三日熱マラリア原虫完全長 c-DNA ライブラリが完成しました。

国際共同研究には現地事情や、互いの国の文化習慣への理解が不可欠です。段階をおってかつゆっくりと時間をかけて国際共同研究への道を開いていったことは、一見遠回りかもしれませんが、結果的には協力体制へのしっかりした土台を構築することができたのではないかと考えています。多くの人に支えられ、その後もマナドと日本の共同研究は続いていきました。今後も両国の友好的な相互的国際協力が続くことを願ってやみません。

My first visit in Japan

Angela Kalesaran

“Dear Angela, congratulations you have been passed!”

This sentence really made my day on 6th September 2012. That was when I received the email from The University of Tokyo ADB-JSP International Health Committee informing me that I was selected as one of the scholar for their Master Course starting next April. Following the news, I was invited by Professor Ushijima to visit Japan for some orientation and meeting regarding my future research with him. Without hesitation, I accepted the invitation right away.

With limited Japanese language ability, I went to Japan last October. Instead of feeling afraid due to my

language barrier, curiosity and eagerness to see “the land of the rising sun” - where the history and future are in one place, fulfilled my heart when I landed on Haneda airport. Tokyo welcomed me with a very nice weather, as well as a very nice person who was very generous to pick me up at the airport, Tamaki sensei. Feeling grateful of this situation, I continue my journey to explore Japan some more with happiness.



I visited the University of Tokyo on my second day in Japan. Accompanied by a very nice lady, Takanashi sensei, she kindly took me around Hongo campus to see some famous architecture at the university, include the famous Akamon (red gate) and Yasuda auditorium. Then I got the chance to visit the international student office at the campus and Department of Developmental Medical Science. All staffs were lovely, and welcomed me with a warm heart.

I also went to Nihon University Hospital to visit Professor Ushijima's laboratory. Like all other laboratories I have visited, the rooms were full with equipment and other lab stuffs. Yet the atmosphere was warm, and the people were being so generous and helpful for me. I got a little 'tour' of the lab, and was introduced to the other member of the



lab. I felt like finding a new family whom I will be part of next year.



A trip was not complete without doing the touristy activities. Having the chance to do some of that, I found that Japan was indeed a mixture of the past and the future. I was fascinated by modern Japan when I went to Tokyo Skytree, Shibuya, Umeda Skybuilding Kyoto, and Namba area in Osaka. Tall buildings with thousands of lights and sophisticated architectures were all there. I was as well amazed by cultural and historical sides of Japan when I went to Asakusa, Gion district, Imperial Palace Kyoto, and Osaka castle. Those places were some of the most beautiful places I have been.



There were plenty of interesting things I discovered every day on this trip. Thousands of vending machines everywhere, include the ones used to order food (which I never thought before), cute looking snacks, the culture to bow, the generosity and hospitality of the people, and the Japanese work ethic.

I am sure there are still plenty other interesting things I will find when I am back in Japan. Hence, I am so looking forward to be back in Japan, and be part of this fascinating country.



あとがき

原稿を投稿して下さいました皆様にお礼を申し上げます。牛島研究室を巣立った方々が世界中で御活躍されていることがわかる9号になりました。Manilayさん、Deyさんそして巣立った皆様方の益々の御活躍を期待しています。また、来年4月から大学院生として研究を始める予定のAngelaさんが研究の事前打合せで日本に来日されました。初めての日本訪問の印

象を早々と投稿してくださいました。好奇心旺盛で日本文化に大変興味を持っておられる方のように思われました。日本文化に興味を持たれているので、日本語を話すようになるのにさほど時間はかからないかもしれません。同じくインドネシアから大学院生として来日しているルッキーさんと私は、九州から Angelaさんを応援しています。

さて、インドネシア国のマナドで現在も国際協力にたずさわっておられる今田様の原稿を読ませていただきました。国際協力は草の根的で、かつ個人の努力がやはり必要なのだと再認識いたしました。実際に活動しているときは大変でもそのうちのひとつでも実を結べば苦勞が報われます。また、うれしいものです。現地で共に苦勞した若手の方々がどのように巣立って行かれるのか今後が楽しみです。今田様の益々の御活躍も期待しています。

特定非営利活動法人(NPO) 国際健康開発会報は9号となりました。これもひとえに皆様方からの御支援の賜と思っています。今後は更に皆様からの御寄稿をお待ちしています。

なお、本会報は、ウェブ上
(<http://square.umin.ac.jp/boshiken/>)
で公開されています。多くの皆様にご一読願えれば幸いです (YE)。